

# 健康生活科学特論

(Health and Human Life Sciences Specialize)

科目区分	担当教員							
看護	道信 良子 大谷 昌弘 法木 左近 林 祐一 二本柳 玲子 普照 早苗							
	授業方法	講義	対象学年	1	開講期	前期	単位数	2
オフィスアワー	授業終了後							
メールアドレス	大谷 : mohtani, 法木 : snoriki, 林 : hayashiy, 二本柳 : nihonyanagi, 普照 : sfutio, 道信 : michinor※アドレスの末尾に@g.fpu.ac.jp							
授業概要	人の健康や生活の現象と課題について、人類学、医学、病理学、薬理学、看護学の視点から学ぶ。健康と生活上の課題を科学的、客観的な視野で探究する。個人と地域社会のウェルビーイングの向上に貢献するための現象理解の理論と問題解決のための方法論を修得する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康生活科学、医療人類学に必要な理論と方法論を理解できる。</li> <li>2. 感染症、生活習慣病やがんに関わる病態・診断・治療などについて理解できる。</li> <li>3. 認知機能と生活習慣、医薬品と認知の視点から、人々の健康と生活について理解できる。</li> <li>4. 看護学における人間・健康・生活のとらえ方を理解できる。</li> </ol> (本授業は、DP1 に対応している)							
授業計画・内容	第1～5回(道信) ・健康生活科学の理論と方法論(健康生活科学の基礎学的側面から) ・医療人類学の理論と方法論(健康生活科学の応用学的側面から) ・ヘルス・エスノグラフィの方法論(健康生活科学の実践的側面から) 第6～7回(大谷) 感染症に関わる病態・診断・治療(医学・病理学的側面から) 第8～9回(法木) 感染症、生活習慣病、がんに関わる病態・診断・治療(医学・病理学的側面から) ・第10～11回(林) 認知機能と生活習慣病、医薬品と認知機能(医学・薬理学的側面から) 第12～13回(二本柳) 主要な看護理論家がとらえる人間・健康・環境①② 第14～15回(普照) 主要な看護理論家がとらえる人間・健康・環境③④							
キーワード	人間 健康 生活 ウェルビーイング							
教科書	指定しない							
参考書	授業時に提示する							
評価方法・評価基準	評価方法：個別課題レポート(100%) 第1～5回：人間、健康、環境に関する医療人類学の理解度と学び(25%) 第6～7回：感染症に関わる病態・診断・治療の理解度と学び(15%) 第8～9回：感染症、生活習慣病、がんの病態・診断・治療の理解度と学び(15%) 第10～11回：認知機能と生活習慣病、医薬品と認知機能の関係の理解度と学び(15%) 第12～13回：看護学がとらえる人間、健康、環境①②に関する理解度と学び(15%) 第14～15回：看護学がとらえる人間、健康、環境③④に関する理解度と学び(15%) 評価基準： ①講義の課題を的確にとらえて展開している ②自分の主張(考えや思い)を的確に表現している ③論旨が一貫している ④資料の構成が適切でわかりやすい ※対面授業、遠隔授業共に同様の評価方法・評価基準とする。							

関連科目	研究倫理特論
履修要件	なし
必要な事前 ・事後学修	授業時に提示する。
その他	<ul style="list-style-type: none"><li>・授業は対面授業と遠隔授業のハイブリッド型で実施する。遠隔授業は Zoom（ズーム）等によるオンライン授業で対応する。</li><li>・特別講師による講義を開催する場合がある。</li></ul>

# 研究倫理特論

(Research Ethics Specialize)

科目区分	担当教員							
共通 必修	林 祐一 笠井 恭子							
	授業方法	講義	対象学年	1	開講期	前期	単位数	2
オフィスアワー	授業終了後							
メールアドレス	林 : hayashiy 笠井 : kasai ※アドレスの末尾に@g.fpu.ac.jp							
授業概要	<p>研究者として誠実で責任ある研究を推進していくために必要な研究倫理について次の点を学習する。</p> <p>(本授業は、DP1に対応している。)</p>							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健全な研究を行うための基本的倫理事項について理解できる。</li> <li>2. ゲノム取り扱い・遺伝倫理・生殖医療の倫理について理解できる。</li> <li>3. 人を対象とする研究一般における臨床倫理について理解できる。</li> <li>4. 人を対象とする看護福祉研究における臨床倫理について理解できる。</li> </ol>							
授業計画・内容	<p>第1～12回 (林)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健全な研究を行うための基本的倫理事項</li> <li>・ゲノム取り扱い・遺伝倫理・生殖医療の倫理</li> <li>・人を対象とする研究一般における臨床倫理</li> </ul> <p>第13～15回 (笠井)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人を対象とする看護福祉研究における臨床倫理</li> </ul> <p>※遠隔授業となった場合は、ZOOM等によるオンライン授業で対応する。</p>							
キーワード	臨床倫理 ゲノム 遺伝倫理 生殖医療の倫理							
教科書	指定しない							
参考書	授業時に提示する							
評価方法・評価基準	<p>評価方法：個別課題レポート等（100％）で評価し、60％以上を合格とする。</p> <p>評価基準：①課題を的確にとらえて展開しているか、②論旨が一貫しているか、③自分の主張（考えや思い）を的確に表現しているか、④資料の構成が適切でわかりやすいか</p> <p>※遠隔授業の場合も、上記と同じ評価方法・評価基準とする。</p>							
関連科目	健康生活科学特論							
履修要件	なし							
必要な事前・事後学修	授業時に提示する							
その他								

# 健康科学特論

(Health Sciences Specialize)

科目区分	担当教員							
専門 必修（領域別）	水谷 哲也 大島 千佳 川村 みどり 長谷川 小眞子 藤野 秀則							
	授業方法	講義	対象学年	1	開講期	前期	単位数	2
オフィスアワー	授業終了後							
メールアドレス	水谷：mizutani 大島：oshima 川村：kwmr2021 長谷川：hasegawa 藤野：fujino ※アドレスの末尾に@g.fpu.ac.jp							
授業概要	人々の心身の健康と向上と新たな充実した生き方の創出に資するため、基礎医学、看護理工学、人間工学を中心とした視点からアプローチする方法について教授する。また、新たな知見と発見を見出す研究プロセスについて、多角的・多面的な研究方法及び量的研究の基礎となる統計学的手法について教授する。							
到達目標	人々の心身の健康と向上に資するため、新たな知見と発見を見出す研究プロセスについて、多角的・多面的なアプローチ方法・研究方法を理解し、量的研究の基礎となる統計学的手法について習得できる。 (本授業は、DP2に対応している。)							
授業計画・内容	第1～3回（水谷） ・バイオマーカーの視点から人々の健康と向上と充実した生き方へのアプローチ方法 第4～6回（大島） ・エビデンスに基づく看護ケアの視点から人々の健康と向上と充実した生き方へのアプローチ方法 第7～11回（川村） ・パーソナル・リカバリーの視点から精神障害者の充実した生き方へのアプローチ方法 第12～13回（長谷川） ・シミュレーションを活用した看護教育の視点から人々の健康と向上と充実した生き方へのアプローチ方法 第14～15回（藤野） ・ヒューマンインタフェースの視点から人々の健康と向上と充実した生き方へのアプローチ方法 ※遠隔授業となった場合は、ZOOM等によるオンライン授業で対応する。							
キーワード	健康 基礎医学 看護理工学 人間工学 研究方法							
教科書	指定しない							
参考書	授業時に提示する							
評価方法・評価基準	評価方法：個別課題レポート等（100%）で評価し、60%以上を合格とする。 評価基準：①課題を的確にとらえて展開しているか、②論旨が一貫しているか、③自分の主張（考えや思い）を的確に表現しているか、④資料の構成が適切でわかりやすいか ※遠隔授業の場合も、上記と同じ評価方法・評価基準とする。							
関連科目	看護実践開発演習 健康バイオマーカー演習							
履修要件	なし							
必要な事前・事後学修	授業時に提示する							
その他								

# 看護実践開発演習

(Nursing Practice Development Seminar)

科目区分	担当教員							
専門 選択必修 (領域別)	笠井恭子 大島 千佳 長谷川小眞子 山内 豊明							
	授業方法	演習	対象学年	1	開講期	通年	単位数	4
オフィスアワー	授業終了後							
メールアドレス	笠井 : kasai 大島 : oshima 長谷川 : hasegawa ※アドレスの末尾に@g.fpu.ac.jp							
授業概要	自律神経測定、睡眠測定機器、多職種ハイブリッドシミュレーター等の各種機器を用いた演習を行うとともに、エビデンスに基づく看護実践の開発を目指す研究プロセスについて関連論文の抄読、ディスカッションをとおして探究する。							
到達目標	自らの研究課題と関連させながら、エビデンスに基づく看護実践の開発に関する論文の抄読、ディスカッションを通じて実践的な研究プロセスを習得する。 (本授業は、DP3に対応している。)							
授業計画・内容	第1～20回(笠井・大島) ・自律神経測定器を用いた演習 ・睡眠測定機器を用いた演習 ・上記関連論文の抄読、ディスカッション 第21～60回(長谷川・山内) ・多職種ハイブリッドシミュレーターを用いた高度看護実践演習 ・上記関連論文の抄読、ディスカッション ※遠隔授業となった場合は、ZOOM等によるオンライン授業で対応する。							
キーワード	エビデンス 看護実践 論文抄読 研究プロセス							
教科書	指定しない							
参考書	授業時に紹介する							
評価方法・評価基準	評価方法：第1～20回：毎授業時のプレゼンテーションとディスカッション状況(25%) 授業で取り扱った演習の理解度と学びに関するレポート(25%) 第21～60回：毎授業時のプレゼンテーションとディスカッション状況(25%) 授業で取り扱った演習の理解度と学びに関するレポート(25%) 60%以上を合格とする。 評価基準：①自分の主張(考えや思い)を表現する力およびプレゼンテーション力、②課題の的確な把握、③論旨の一貫性、④資料の構成の適切性、 ※遠隔授業の場合も、上記と同じ評価方法・評価基準とする。							
関連科目	健康科学特論 健康バイオマーカー演習							
履修要件	なし							
必要な事前・事後学修	授業時に提示する							
その他	特になし							

# 健康バイオマーカー演習

(Health Biomarkers Seminar)

科目区分	担当教員							
専門 選択必修 (領域別)	法木 左近 大谷昌弘 水谷 哲也							
	授業方法	演習	対象学年	1	開講期	通年	単位数	4
オフィスアワー	授業終了後							
メールアドレス	法木 : snoriki 大谷 : mohtani 水谷 : mizutani ※アドレスの末尾に@g.fpu.ac.jp							
授業概要	健康と関連する感染症、消化器疾患、胎盤などを評価するバイオマーカーについて、測定手技、評価法などの実践的アプローチを演習するとともに、関連論文の抄読、ディスカッションをとおして探究する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自らの研究課題と関連させながらバイオマーカーに関する英語論文を理解できる。</li> <li>2. 自らの研究課題と関連させながらバイオマーカーの評価法を理解できる。</li> <li>3. ディスカッションを通じて実践的な研究プロセスを理解できる。</li> </ol> (本授業は、DP3に対応している。)							
授業計画内容	第1～20回(法木) ・感染症、とくに真菌に関連したバイオマーカー実験 ・上記関連論文の抄読、ディスカッション 第21～40回(大谷) ・消化器疾患、とくに肝臓に関連したバイオマーカー実験 ・上記関連論文の抄読、ディスカッション 第41～60回(水谷) ・胎盤に関連したバイオマーカー実験 ・上記関連論文の抄読、ディスカッション							
キーワード	バイオマーカー 論文抄読 研究プロセス							
教科書	指定しない							
参考書	授業時に提示する							
評価方法・評価基準	評価方法：個別課題レポート等(100%)で評価し、60%以上を合格とする。 第1～20回：感染症に関するバイオマーカーに関する理解度と学び(34%) 第21～40回：消化器疾患に関するバイオマーカーに関する理解度と学び(33%) 第41～60回：胎盤に関連したバイオマーカーに関する理解度と学び(33%) 評価基準：①課題を的確にとらえて展開しているか、②論旨が一貫しているか、③自分の主張(考えや思い)を的確に表現しているか、④資料の構成が適切でわかりやすいか ※遠隔授業の場合も、上記と同じ評価方法・評価基準とする。							
関連科目	健康科学特論 看護実践開発演習							
履修要件	なし							
必要な事前・事後学修	授業時に提示する							
その他								

# 健康福祉学特論

(Health and Welfare Science Specialize)

科目区分	担当教員							
専門 必修（領域別）	田中裕美子 久米 真代 道信 良子 小林澄貴 畠中耕							
	授業方法	講義	対象学年	1	開講期	前期	単位数	2
オフィスアワー	授業終了後							
メールアドレス	田中：yktanaka 久米：kume 道信：michinor 畠中：kohatake 小林：skobayashi ※アドレスの末尾に@g.fpu.ac.jp							
授業概要	社会福祉政策の歴史を学び、現状での高齢者福祉・障害者福祉、地域福祉の課題とそれに対する解決策について講究する。社会全体の Well-being の向上に向けた総合的なアプローチ方法を学習する。							
到達目標	健康福祉に関連する複雑多岐な課題について理論的・実践的側面から理解できる。 社会全体の Well-being の向上に向けた総合的なアプローチ方法を習得することができる。 (本科目は DP2 に対応している。)							
授業計画 内容	第1回（ガイダンス）（田中） 第6～7回、第10～11回、第14～15回（田中） ・社会政策の視点から非正規雇用を中心とした労働問題へのアプローチ方法 第2～3回（久米） ・認知症高齢者の課題や解決策における社会福祉政策の変遷、および医療と社会福祉のシームレス化により多職種が連携してアプローチする方法 第4～5回（道信） ・多様ないのちを育む地域共生社会の実現に向けた医療人類学の理論的アプローチと方法論 第8～9回（畠中） ・現代日本の社会福祉が抱える課題に歴史学の視点からアプローチする方法 第12～13回（小林） ・公衆衛生学・疫学の視点から健康を取り巻く地域福祉や社会福祉等といった社会的課題を理解し、その課題解決を模索する総合的なアプローチ方法							
キーワード	健康福祉 社会福祉政策 Well-being アプローチ							
教科書	指定しない							
参考書	授業時に提示する							
評価方法・ 評価基準	評価方法：個別課題レポート等（100%）で評価し、60%以上を合格とする。 評価基準：①課題を的確にとらえて展開しているか、②論旨が一貫しているか、③自分の主張（考えや思い）を的確に表現しているか、④資料の構成が適切でわかりやすいか							
関連科目	保健医療福祉演習 地域包括ケア演習							
履修要件	なし							
必要な事前 ・事後学修	授業時に提示する							
その他								

# 保健医療福祉演習

(Health Care and Welfare Seminar)

科目区分	担当教員							
看護	岡田隆志 小林澄貴 久米真代 二本柳玲子 道信良子							
	授業方法	演習	対象学年	1	開講期	通年	単位数	4
オフィスアワー	授業終了後							
メールアドレス	岡田:okataka 小林:skobayashi 久米:kume 二本柳:nihonyanagi 道信:michinor ※アドレスの末尾に@g.fpu.ac.jp							
授業概要	少子高齢化、ヘルスケアニーズの複雑化・多様化等が進むわが国の現状と課題を明らかにし、保健医療福祉の視点からこれらの課題を解決するための方法について講究する。							
到達目標	自らの研究課題と関連させながら、保健医療福祉の課題解決に関する論文の抄読、ディスカッションを通じて解決方法について理解できる。 (本授業は、DP4に対応している。)							
授業計画・内容	<p>第1～12回(岡田)精神保健福祉学の立場からみた少子高齢化、ヘルスケアニーズの複雑化・多様化の現状と課題と解決方法/論文の抄読、ディスカッション</p> <p>第13～24回(小林)公衆衛生学・疫学の立場からみた少子高齢化、ヘルスケアニーズの複雑化・多様化の現状と課題と解決方法/論文の抄読、ディスカッション</p> <p>第25～36回(久米)老年看護学の立場からみた少子高齢化、ヘルスケアニーズの複雑化・多様化の現状と課題と解決方法/論文の抄読、ディスカッション</p> <p>第37～48回(二本柳)成人看護学・がん看護学の立場からみた少子高齢化、ヘルスケアニーズの複雑化・多様化の現状と課題と解決方法/論文の抄読、ディスカッション</p> <p>第49～60回(道信)医療人類学の立場からみた少子高齢化、ヘルスケアニーズの複雑化・多様化の現状と課題と解決方法/論文の抄読、ディスカッション</p>							
キーワード	ヘルスケアニーズ 論文抄読 研究プロセス							
教科書	指定しない							
参考書	授業時に提示する							
評価方法・評価基準	<p>評価方法：個別課題レポート(100%)で評価する</p> <p>評価基準：①課題を的確にとらえて展開しているか、②論旨が一貫しているか、③自分の主張(考えや思い)を的確に表現しているか、④資料の構成が適切でわかりやすいか</p>							
関連科目	健康福祉学特論 地域包括ケア演習							
履修要件	なし							
必要な事前・事後学修	授業時に提示する							
その他								

# 地域包括ケア演習

(Community-based Integrated Care System Seminar)

科目区分	担当教員							
専門 選択必修 (領域別)	普照 早苗 坂口 昌宏 小島 亜未 梅津 千香子 畠中 耕							
	授業方法	演習	対象学年	1	開講期	通年	単位数	4
オフィスアワー	授業終了後							
メールアドレス	普照 : sfutio 坂口 : mssaka 小島 : akojima 梅津 : cumezu 畠中 : kohatake ※アドレスの末尾に @g.fpu.ac.jp							
授業概要	地域・在宅看護、地域・精神保健、地域福祉、地域保健、地域看護、公衆衛生の各領域に関連する諸理論を統合しながら、これからの地域包括ケアシステム・地域共生社会を構築する概念や施策について探究する。							
到達目標	自らの研究課題と関連させながら、地域社会における諸課題に対する方策・施策等に関する先行研究や論文の抄読やディスカッション等を通じて、我が国の現状と課題について理解できる。 (本授業は、DP4に対応している。)							
授業計画・内容	<p><u>第1～12回(普照)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケアシステムと地域・在宅看護領域における基本概念との関連性</li> <li>・これからの地域共生社会を目指す現状における諸問題や対処・解決方法</li> <li>・論文の抄読、ディスカッション</li> </ul> <p><u>第13～24回(坂口)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域福祉に関連する諸理論を用いて地域包括ケアシステムを構築するための方法</li> <li>・地域社会における諸問題に対する対処・解決方法</li> <li>・論文の抄読、ディスカッション</li> </ul> <p><u>第25～36回(小島)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域保健・地域看護に関連する諸理論を用いて地域包括ケアシステムを構築するための方法</li> <li>・地域社会における諸問題に対する対処・解決方法</li> <li>・論文の抄読、ディスカッション</li> </ul> <p><u>第37～48回(梅津)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅看護に関連する諸理論を用いて地域包括ケアシステムを構築するための方法</li> <li>・地域社会における諸問題に対する対処・解決方法</li> <li>・論文の抄読、ディスカッション</li> </ul> <p><u>第49～60回(畠中)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉国家・地域福祉実践に関連した歴史文献の研究</li> <li>・地域社会における諸問題に対する歴史的実践の評価</li> <li>・論文の抄読、ディスカッション</li> </ul>							
キーワード	地域包括ケアシステム 地域共生社会 論文抄読 研究プロセス							
教科書	指定しない							
参考書	授業時に提示する							

評価方法・ 評価基準	<p>評価方法：個別課題レポートを担当教員 5 名の単元ごとに課する（各 20 点）。合計 100 点で評価し、合算得点 60 点以上を合格とする。</p> <p>評価基準：①課題を的確にとらえて展開しているか、②論旨が一貫しているか、③自分の主張（考えや思い）を的確に表現しているか、④資料の構成が適切でわかりやすいか、とする。</p>
関連科目	健康福祉学特論 保健医療福祉演習
履修要件	なし
必要な事前 ・事後学修	授業時に提示する
その他	

# 健康基礎科学特別研究

(Research : Basic Health Sciences)

科目区分	担当教員							
特別研究 必修 (領域別)	大谷昌弘 法木 左近 林祐一 笠井 恭子 水谷 哲也 川村 みどり 大島 千佳							
	授業方法	その他	対象学年	1~3	開講期	通年	単位数	6
オフィスアワー	授業終了後							
メールアドレス	大谷 : mohtani 法木 : snoriki 林 : hayashiy 笠井 : kasai 水谷 : mizutani 川村 : kwmr2021 大島 : oshima ※アドレスの末尾に@g.fpu.ac.jp							
授業概要	博士論文を作成するため、基礎となるコースワークをすすめながら研究課題を決定し、研究全体の計画を立案する。研究計画書、倫理審査申請書類を作成し、倫理委員会へ書類を提出し、承認後、計画に基づき研究を遂行する。研究結果をまとめ、博士論文を作成する。2年次に研究の進捗状況を発表する中間発表会、3年次に博士論文予備審査・公開発表会を行う。 (本授業は、DP5に対応している。)							
到達目標	1. 研究課題、研究目的・方法を明確化し研究計画書を完成、倫理審査申請書類を作成できる。 2. 研究に必要な倫理的配慮を実施できる。 3. データ収集・分析に必要な手法を理解し実施できる。 4. 博士論文を完成できる。							
授業計画・内容	博士論文を完成させるために、研究指導教員、研究指導補助教員による個別指導を受けながら研究課題に取り組む。 1. 自己の研究課題に関連する先行研究の内容を概説し、研究課題、研究目的・方法を明確化し研究計画書を作成する。 2. 研究対象者に対する倫理的配慮を明確にし倫理審査申請書類を作成し倫理委員会に提出して承認を得る。 3. 研究対象者に研究の概要、目的・方法等について文書を用いて口頭で説明し研究協力の同意を得てデータを収集する。 4. データの分析を行い、結果を記述する。 5. 文献を活用しながら考察する。 6. 博士論文を作成し推敲する。 7. 博士論文内容の予備審査を受ける。 8. 博士論文公開発表会で発表、質疑応答を行い、その後、最終試験を受ける。 ※遠隔授業となった場合は、ZOOM等によるオンライン授業で対応する。							
キーワード	研究計画 倫理審査 博士論文作成 発表							
教科書	指定しない							
参考書	授業時に提示する							
評価方法・評価基準	福井県立大学大学院健康生活科学研究科博士学位論文審査細則に示すとおりである。 ※遠隔授業の場合も、上記と同じ評価方法・評価基準とする。							
関連科目	研究倫理特論 専攻領域の特論・演習							
履修要件	なし							
必要な事前・事後学修	内容を十分検討した資料を準備し、確認したいことを明確にした上でゼミに臨む。							
その他								

# 健康生活探究特別研究

(Research : Health and Human Life inquiry)

科目区分	担当教員							
特別研究 必修 (領域別)	道信 良子 梅谷進康 久米 真代 小島亜未 小林澄貴 田中 裕美子 岡田 隆志 二本柳 玲子 普照 早苗 梅津 千香子 坂口 昌宏 畠中 耕							
	授業方法	その他	対象学年	1~3	開講期	通年	単位数	6
オフィスアワー	授業終了後							
メールアドレス	道信 : michinor, 久米 : kume, 梅谷 : , 小島 : akojima, 小林 : skobayashi, 二本柳 : nihonyanagi, 普照 : sfutio, 田中 : yktanaka 岡田 : okataka 梅津 : cumezu, 坂口 : mssaka, 畠中 : kohatake ※アドレスの末尾に@g.fpu.ac.jp							
授業概要	博士論文を作成するため、基礎となるコースワークを進めながら研究課題を決定し、研究全体の計画を立案する。研究計画書、倫理審査申請書類を作成し、倫理委員会へ書類を提出し、承認後、計画に基づき研究を遂行する。研究結果をまとめ、博士論文を作成する。2年次に研究の進捗状況を発表する中間発表会、3年次に博士論文予備審査・公開発表会を行う。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究課題、研究目的・方法を明確化し研究計画書を完成、倫理審査申請書類を作成する。</li> <li>2. 研究に必要な倫理的配慮を実施する。</li> <li>3. データ収集・分析に必要な手法を理解し実施する。</li> <li>4. 博士論文を作成する。</li> </ol> (本授業は、DP5に対応している。)							
授業計画・内容	博士論文を完成させるために、研究指導教員、研究指導補助教員による個別指導を受けながら研究課題に取り組む。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の研究課題に関連する先行研究の内容を概説し、研究課題、研究目的・方法を明確化し研究計画書を作成する。</li> <li>2. 研究対象者に対する倫理的配慮を明確にし倫理審査申請書類を作成し倫理委員会に提出して承認を得る。</li> <li>3. 研究対象者に研究の概要、目的・方法等について文書を用いて口頭で説明し研究協力の同意を得てデータを収集する。</li> <li>4. データの分析を行い、結果を記述する。</li> <li>5. 文献を活用しながら考察する。</li> <li>6. 博士論文を作成し推敲する。</li> <li>7. 博士論文内容の予備審査を受ける。</li> <li>8. 博士論文公開発表会で発表、質疑応答を行い、その後、最終試験を受ける。</li> </ol>							
キーワード	研究計画 倫理審査 博士論文作成 発表							
教科書	指定しない							
参考書	授業時に提示する							
評価方法・評価基準	福井県立大学大学院健康生活科学研究科博士学位論文審査細則に示すとおりである							
関連科目	研究倫理特論 専攻領域の特論・演習							
履修要件	なし							
必要な事前・事後学修	内容を十分検討した資料を準備し、確認したいことを明確にした上でゼミに臨む							
その他								